

ま え が き

本研究所ではさきに小学校四、五、六年の算数及び中学校三年の数学学力検査問題を発表した。この問題作成の経過並に結果をまとめ、これに関連する教育上の諸問題について検討を加え、ここに紀要第二集として発表することにした。

この学力検査問題はもともと現場の先生方に児童、生徒の学力を客観的に評価診断し、これによつてその素質、学力の進み方を正しくとらえて頂き学習指導の上に役立てて頂く目的で作成したものである。然しその作成過程において行つた諸調査や研究、結果から我々は本県数学教育の実態の一端を瞥見し得たのみでなく更に多くの教育上重要な資料を得ることができた。これらは本県教育課程基準案作成上の基礎資料として貴重なものであるだけでなく、一般の数学、算数教育の研究者及び実務家にも参考となることが多いであろう。

本紀要はこれらの内容や問題作成の手続きをできるだけ詳しく記述した。

これを実際に活用し、或は研究を進めていられる現場教師の方々に、より多くの参考資料を提供することができれば幸いこれに過ぐるものはない。各学校の実務家は教育計画の進歩改善や実際指導の上にこれを活用され、教育の振興に資されると共に数学教育の研究者が、これを乗り越えて更に優れたテストを完成して頂ければ真に我々の喜びとする所である。

テストの作成に当つては、本研究所は全力を傾注したのであるが、尙大方の御叱声、御教示を頂ければ幸である。

尙本紀要の主な執筆者は、武藤惇、小島甚作、長谷川敏雄の三所員である。

最後にこの研究に当り、御指導と御協力をよせられた新潟大学の諸先生、及び現場教師の方々、尙 標準化の実施、その他に協力を願つた各学校に深く謝意を表わす次第である。

昭和 26 年 3 月

新潟県教育研究所長 島 津 政 雄